

促成栽培イチゴでの寄生性天敵コレマンアブラバチによるワタアブラムシの防除					
[要約] 促成栽培イチゴにおいて、ビニル被覆後のワタアブラムシの発生初期にコレマンアブラバチを1週間間隔で3回、1回につき500頭/10a放飼することで、化学農薬を散布せずに、ワタアブラムシの密度を4月まで低く抑制することができる。					
担当部署	病害虫部・虫害チーム			連絡先	092-924-2938
対象作物	野菜	専門項目	病害虫	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

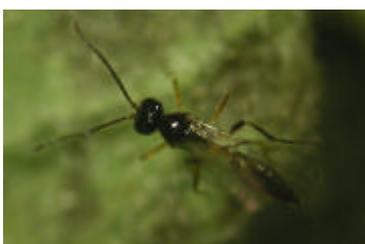
施設栽培イチゴにおいて、化学農薬を削減した病害虫防除体系を確立する一環として、ワタアブラムシに対する寄生性天敵のコレマンアブラバチの利用法を確立する。(要望機関名：生産流通課、八女普(H6))

[成果の内容・特徴]

1. 促成栽培イチゴでは、ワタアブラムシは10月下旬のビニル被覆後から発生が増加し、薬剤防除を行なわないと、冬季にも高密度に達する(図1：無放飼区)。
2. 促成栽培イチゴでワタアブラムシの発生初期の10月下旬～11月上旬に、寄生性天敵のコレマンアブラバチを1週間間隔で3回、1回につき500頭/10a放飼すると、ワタアブラムシの密度は4月まで低く抑制される(図1：放飼区)。
3. コレマンアブラバチの寄生(マミー)率は、放飼直後は低い放飼40日後頃から上昇し、70%以上に達する(図2)。
4. 以上の結果を踏まえて、「促成栽培イチゴにおけるコレマンアブラバチの利用マニュアル」を作成した。

[成果の活用面・留意点]

1. 減農薬イチゴ栽培を普及推進するために、「促成栽培イチゴにおけるコレマンアブラバチ利用マニュアル」を利用できる。
2. 生産者が管理作業中にワタアブラムシの初発生を認めてから放飼を開始する。この際、アブラムシの発生場所を中心に放飼する。
3. 放飼後にワタアブラムシの密度が部分的に増加した場合は、チェス水和剤またはモスピラン水溶剤をスポット散布する。



コレマンアブラバチ成虫



寄生されたワタアブラムシ(マミー)

[具体的データ]

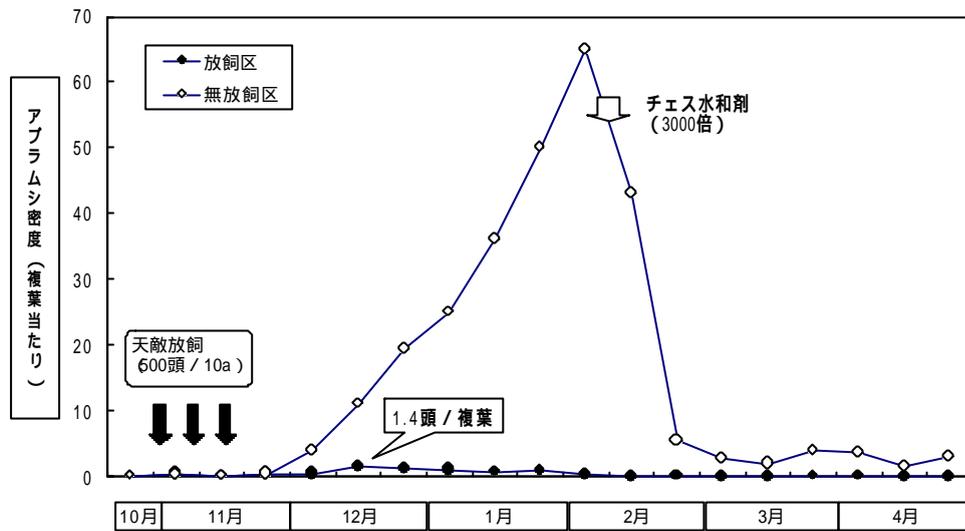


図1 アブラムシに対するコレマンアブラバチの密度抑制効果 (平成14年)
注)キャットアグリシステムズのコレマンアブラバチを試験に用いた

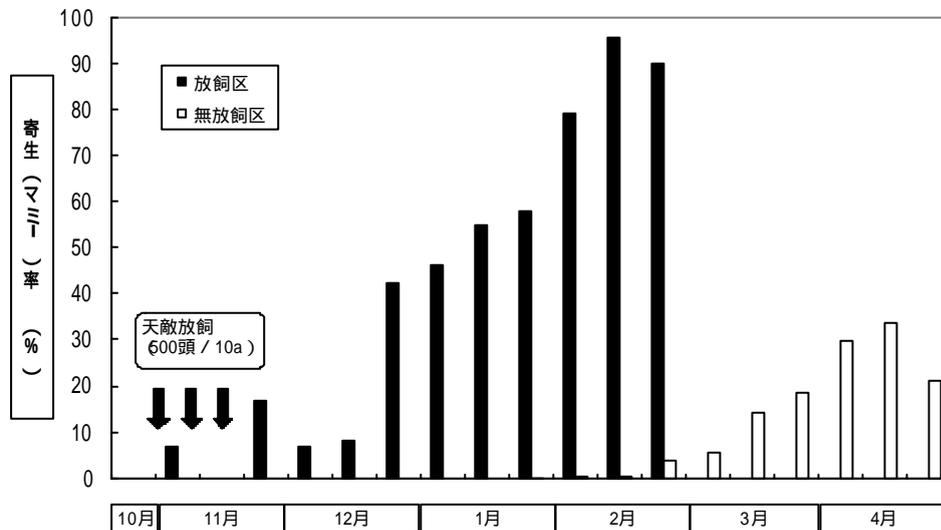


図2 試験圃場における寄生(マミー)率の推移 (平成14年)
注)寄生(マミー)率=マミー数/(マミー数+アブラムシ数)×100

[その他]

研究課題名：イチゴにおける総合害虫管理技術の確立
 予算区分：県特（環境にやさしい農業新技術開発事業）
 研究期間：平成14年度（平成11～14年）
 研究担当者：嶽本弘之、山村裕一郎